

参考資料3

知床岬地区におけるエゾシカ対策の今後の方針

項目	特徴	第4期計画期間												第5期計画期間(仮)																															
		2025(R7)年度						2026(R8)年度						2027(R9)年度						2028(R10)年度～																									
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	#	#	#	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3								
仕切柵改良																																													
測量設計	・現地に上陸できる時期が限定される	●	●	●	●	●	●	●																																					
施工	・現地に上陸できる時期が限定される											●	●	●	●	●	●																												
捕獲																																													
厳冬期巻狩	・ヘリコプター使用のため 高額 。平年並みの予算で実施する場合は、半島内他地域の捕獲を休止する等の調整が必要(当然、非積雪期の捕獲も困難)。 ・捕獲個体の搬出困難。処置について整理が必要だが ヒグマの懸念はない 。																																												
春期巻狩	・捕獲個体の早期搬出が望ましい。 船の積載量や港への運搬労力との兼ね合いで捕獲数の上限 が決まってしまう。 ・捕獲圧をかけることで、 グリーンシーズンのシカの出没を減らすことに寄与 する可能性もある。																																												
囲いわな	・改良仕切柵の灯台HSコラル部活用。 ・ 誘引餌、シカ笛の活用等との組合せで捕獲効率の向上 が見込まれる																						●	●											●	●									
簡易囲いわな	・既存仕切柵マンゲート部にグリーンネット等で簡易の囲い罠を即設。捕獲作業員の人力で設置可能で、移設も容易。 低密度下での効率的な捕獲 。 ・実地試験による実用性の検証が必要。																						▲	▲											▲	▲									
待ち伏せ式狙撃	・ スレ個体を作らず確実な捕獲 。 ・囲いわな同様、誘引餌やシカ笛等の活用と組み合わせも可。	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲															▲	▲											▲	▲									
エゾシカモニタリング																																													
密度推定カメラ	・現在有用性を検討中。	●	●			●					●	●			●								▲	▲											▲	▲									
航空カウント	・管理計画において生息密度の評価指標となっている。モニタリングを継続してきた実績。 ・費用が高額。燃料代高騰等で今後も上昇の見込み。										●																																		▲
GPS首輪	・低密度下での効果的な捕獲に寄与する可能性が示唆されているが、 罠シカの効果については知見の集積が必要 。																																												
		<ビジョン> ・R6年度の検討を踏まえ、大型仕切り柵の改良に向けて測量設計を実施。R8年度当初より工事着手できるよう発注。 ・R6年度より試行している自動撮影カメラによる密度推定を継続。航空カウント調査の結果と合わせて、 シカの生息状況の評価の仕方を整理し、今後のモニタリング手法を確立(～R8年度) 。						<ビジョン> ・ 大型仕切り柵の改良を完了 。 ・自動撮影カメラ等によるモニタリングを継続(冬季捕獲の効果検証)。 第5期エゾシカ管理計画(仮)にて、今後のエゾシカモニタリングの方針を決定 。						<ビジョン> ・搬出の制約もあり、大量捕獲はできないため、当面は密度が高い状態が続くことを想定し、巻狩りを実施。 ・改良した仕切柵等も活用し、 長期的には捕獲総数のみならず捕獲効率の向上 を目指す(群れ単位で獲り逃しをなくし、スレ個体をつくらない等)。																															